

# 昭和63年5月3日 御船町を襲った 悲劇



▶当時の広報紙。被害の凄惨さが伝わっている



▶浸水して溜まった水を掻き出す



▶行く手を阻む流木などを重機で撤去（中辺田見）



◀商店前で駐車している車が浸かっている様子

▼浸水した商店街一家具などを外に運び出す様子



▲ボートで救出に向かう  
▼災害対策本部



▼濁流が残した爪痕に呆然とする人々



▲飲み込まれた複数の車一ものすごい水量だとかがえる

## 1時間111mmの記録的な豪雨

今から30年前の昭和63年5月3日、ゴールデンウィーク期間中の3日から4日にかけて、県下を襲った集中豪雨は、本町にも大きなツメ跡を残しました。5月の雨としてはもちろん前代未聞だったが、梅雨期も含めても30年に一度あるかないかの異常な降り方だったという集中豪雨。二人の尊い命と50億円以上の大きな被害をもたらした、自然災害の怖しさを見せつけました。

御船町を襲った悲劇  
5月3日、世間はゴールデンウィークで賑わい、行楽日和となるはずでしたが、一転、本町は記録的な豪雨に見舞われました。大雨は、3日午後から4日にかけて断続的に降り続き、3日夜には、水越地区に近い山都町の間谷山に1時間111mmという熊本气象台の観測史上最大（当時）の雨が降り、御船川流域はあっといふ間もなく、濁流に飲み込まれてしまいました。



▲濁流によって流された目鑑橋と立ちつくす人

## 御船川の氾濫

押し寄せた濁流

この記録的な豪雨により、御船川が氾濫し、民家の流失や倒壊、田畑の崩壊、道路の決壊などが相つぎ、壊滅的な打撃を受けることも、町のシンボルであった目鑑橋も凄まじい勢いの濁流により、流出しました。

特に平坦地区では、御船川の氾濫により、民家の浸水など、山間地区では、土砂崩れが民家や田畑を襲うなど短時間かつ広範囲に被害が多発しました。

## 被災の経過（概要）

- 5月3日
- 15時30分 大雨洪水警報発令。
- 16時 職員による第一警戒体制に入る。
- 18時 第二警戒体制に入る。
- 18時10分 水越五ヶ瀬地区で土砂崩れが発生。地区民と消防による復旧作業が始まる。
- 18時30分 東木倉地区の民家に土砂崩れで生き埋めの連絡あり。消防団へ出動を要請。
- 18時47分 役場サイレンにより警戒警報発令。東木倉地区の民家への土砂崩れでは、無事救出される。
- 19時 第三配置体制により役場の全職員出動要請。
- 19時30分 上野日向地区の民家が崩壊。地区民、消防団で救出する。
- 20時 町災害対策本部設置。対策会議を開く。
- 20時10分 御船川流域住民に避難命令を発令。再度サイレンと広報車により避難を指示。
- 20時20分 三丁目では民家にとり残された子どもの救助要請あり。消防団に連絡し、ロープづたいに救出。
- 20時40分 一丁目では民家が倒壊し、住人が行方不明になる。
- 21時 今城、小坂地区の堤防決壊の恐れあり。区長、消防団を通じ避難勧告を指示。
- 21時40分 御船川水位6.49mを記録。
- 21時 今城地区渡橋自転車店前の堤防溢水。建設省から八竜橋右岸決壊の恐れありと連絡。甘木区長を通じ、鶴地区に避難勧告を発令。
- 21時40分 第4分団（七滝）が負傷した住民を保護。へりを要請する。